

令和4年度 第2回 (通算第52回)
山梨県立博物館 運営委員会 次第

令和4年12月14日 (水) 午後2時～4時
博物館 生涯学習室

開 会

1 あいさつ・新委員紹介・委員長選任

2 議 事

〈 審 議 〉

(1) 令和5年度の企画展・シンボル展および令和6年度の企画展計画について 【資料1】

〈 報 告 〉

(1) 令和5年度の調査研究計画について 【資料2】

(2) 開催済み展覧会について 【資料3】

シンボル展「天津司舞 900年の想いととともに」

企画展「たんけん!はっけん!南極展 壮大な自然と人々の物語」

企画展「山梨と新聞 知識を広むるは新聞を求むるに在り」

(3) 利用者状況について 【資料4】

3 その他

閉 会

令和5年度の調査研究計画について

令和5年度 新規研究候補

番号	種目	名称	担当者	時期	期間	備考
1 【資料2-2】	科研費（基盤研究C）	大正・昭和戦前期の地下鉄事業表現をめぐる地方財閥の動向	小畑	2023～2025年度 (令和5～7年度)	3年間	
2 【資料2-3】	科研費（基盤研究C）	戦国大名家臣の家伝文書に関する研究—甲斐武田氏の家臣を中心に—	海老沼	2023～2026年度 (令和5～8年度)	4年間	
3 【資料2-4】	科研費（基盤研究C）	江戸幕府による藩の理念型—甲府徳川家支配期の甲府藩を事例に—	中野	2023～2025年度 (令和5～7年度)	3年間	
4 【資料2-5】	科研費（基盤研究C）	浮世絵師の地方における活動の基礎的研究	松田	2023～2025年度 (令和5～7年度)	3年間	
5 【資料2-6】	科研費（基盤研究C）	食糧生産力が社会体制に与えた影響の定量的評価：遺跡出土動物からのアプローチ	山田	2023～2026年度 (令和5～8年度)	4年間	

令和 5 年度（2023 年度） 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究（C）
 ○小区分 日本史関連
 ○研究代表者氏名 小畑茂雄
 ○所属研究機関 山梨県立博物館
 ○部局 山梨県立博物館
 ○職 学芸員
 ○学位 修士（史学）
 ○エフオー ト 25%
 ○研究課題名 大正・昭和戦前期の地下鉄事業実現をめぐる地方財閥の動向
 ○研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和 5 年度	2,015	1,040	325	352	225	73
令和 6 年度	1,099	150	244	407	225	73
令和 7 年度	1,389	150	244	197	225	573
総計	4,503	1,340	813	956	675	719

○研究目的（概要）

わが国の産業と社会資本の形成には、地方財閥が中心的な役割を果たし、これらが特定分野の企業を支配的に経営をした事例があった。東京の鉄道や電力といった社会資本の経営を握った「甲州財閥」も地方財閥のひとつに数えられるが、その財政的基盤は地域的な投資家の連合によって形成されていたことが先行研究によって明らかにされている。ところが、大正時代以降には東京地下鉄道を設立した早川徳次など、地主経営などの固有の資本を持たないにも関わらず、「甲州財閥」の事業群の一翼を担った存在が登場している。早川の地下鉄事業については、その成立過程についての研究もほとんどなされていないため、本研究ではこの早川徳次を中心に分析し、「甲州財閥」という地方財閥のあり方を捉えなおす作業とともに、日本初の地下鉄となったこの事業を、鉄道・交通史の位置づけから評価することにも取り組んでいきたい。手法としては、早川の事業形成の基盤となったであろう地縁的な関係性を明らかにしつつ、その事業を財政面や政策面でサポートしたと考えられる学閥など、「甲州財閥」以外の集団との関係についての考察を実証的に行う。また、同時期の東京市会などの政界や都市政策を総合的に分析し、早川が地下鉄を実現したプロセスを、早川個人・各集団との連携・都市および交通の発達史の観点から、多面的に明らかにしていきたい。

令和 5 年度（2023 年度） 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究（C）
 ○小区分 日本史関連
 ○研究代表者氏名 海老沼真治
 ○研究分担者氏名 中野賢治
 ○所属研究機関 山梨県立博物館
 ○部局 山梨県立博物館
 ○職 学芸員
 ○学位 修士（史学）
 ○エフォート 30%（分担者 10%）
 ○研究課題名 戦国大名家臣の家伝文書に関する研究—甲斐武田氏の家臣を中心に—

○研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和 5 年度	1,895	1,410	190	140	80	75
令和 6 年度	876	200	90	290	180	116
令和 7 年度	906	200	110	310	220	66
令和 8 年度	762	160	90	110	120	282
総計	4,439	1,970	480	850	600	539

○研究目的（概要）

戦国大名研究は関係史料の収集・編纂によって進展している一方、大名を支えた家臣団については、とくに戦国期に滅亡して近世まで存続しなかった大名の家臣の場合、史料収集や研究の余地が残されている。この課題の解明に有効な素材となるのが、家臣の家に代々伝わった文書群(家伝文書)である。研究代表者は近年存在が明らかになった、甲斐武田氏(天正 10 年滅亡)家臣山本家の家伝文書について調査・研究を行ってきた。その結果、大名が発給した文書に加え、後世に作成された系譜史料からも、戦国大名家臣としての検討が可能になるなどの特質が見出され、その後の研究や博物館展示にも活かされるなどの評価を得た。

本研究では上記成果をもとに、甲斐武田氏家臣の家伝文書を主な対象として、史料収集・分析をとおして家臣団の構造や特質を考察する。また近世以降に蓄積された史料から、家臣の系譜関係や大名滅亡後の動向を追跡する。家伝文書を一武士の家の歴史を紐解くためだけでなく、戦国期～近世の転換期を考察するための史料として位置づけることを目指す。

令和 5 年度（2023 年度） 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究(C)
 ○小区分 日本史関連
 ○研究代表者氏名 中野 賢治
 ○所属研究機関 山梨県立博物館
 ○部局 学芸課
 ○職 学芸員
 ○学位 修士（文学）
 ○エフオー ト 20%
 ○研究課題名 江戸幕府による藩の理念型—甲府徳川家支配期の甲府藩を事例に—

○研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和 5 年度	1,292	500	250	152	290	100
令和 6 年度	886	0	250	216	320	100
令和 7 年度	792	0	250	152	290	100
総計	2,970	500	750	520	900	300

○研究目的（概要）

本研究では、江戸幕府によって 17 世紀後半に新たに創出された藩を事例に、幕府が構想した藩の理念型を探る。徳川綱重・綱豊（家宣）の 2 代、約 50 年にわたって甲斐国・信濃国などの諸国を広域的に支配した甲府徳川家時代の甲府藩について、組織の人的構成を中心に、その藩政の基礎的事実を明らかにしていく。甲府徳川家や甲府藩への言及は、各地の自治体史に散見されるものの、先行研究では徳川将軍家との関係に着目する者が多く、支配の実現過程などへの言及は断片的なものにとどまっている。そのため藩政の実像はほとんど明らかになっていない。そこで本研究では、まず甲府藩の藩政についての基礎的事実を明らかにする。その結果を、複数の国にまたがる藩領支配の一事例として、甲府藩領の他地域や他藩の支配のあり方と比較し、甲府藩領の支配の特徴を示すことで、藩の理念型に迫る。

令和 5 年度（2023 年度） 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究 (C)
- 小区分 美術史関連
- 研究代表者氏名 松田 美沙子
- 所属研究機関 山梨県立博物館
- 部局 山梨県立博物館
- 職 学芸員
- 学位 修士 (美学)
- エフォート 30%
- 研究課題名 浮世絵師の地方における活動の基礎的研究
- 研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳 (千円)				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和 5 年度	1,008	432	255	195	101	25
令和 6 年度	592	0	135	260	172	25
令和 7 年度	1,634	0	105	100	314	1,115
総計	3,234	432	1,430	2,066	355	568

○研究目的 (概要)

浮世絵研究の主軸は“江戸”で作成された華やかな錦絵を中心とする作品論であるが、浮世絵師たちは江戸以外の“地方”を題材とした名所絵も手掛け、また江戸近郊を中心とする地方に赴いて実際に制作活動を行い、作品を残している。例えば、山梨県における歌川広重や長野県での葛飾北斎の活躍など、すでに研究報告がなされている例も散見でき、江戸以外の地で往時の主要な浮世絵師たちが活動していることがわかっている。

本研究では、地方における江戸の浮世絵師の活動に焦点を当て、絵画資料のみならず、歴史資料からも言及して、“地方と絵師”という関係性から調査を進め、より詳細な絵師の一面を明らかにすることを目標とする。また、正確な浮世絵師の研究を行うために必要不可欠であり、今後の浮世絵研究を飛躍的に前進させることが可能となる、浮世絵師の地方における活動内容に関する基礎データの作成及び公開を最終目的とする。

令和 5 年度（2023 年度） 研究計画調書

- 研究種目 基盤研究（C）
 ○小区分 文化財科学関連
 ○研究代表者氏名 山田英佑
 ○所属研究機関 山梨県立博物館
 ○部局 山梨県立博物館
 ○職 学芸員
 ○学位 博士（理学）
 ○エフオー ト 15%
 ○研究課題名 食糧生産力が社会体制に与えた影響の定量的評価：遺跡出土動物からのアプローチ

○研究経費

年度	研究経費 (千円)	使用内訳（千円）				
		設備備品費	消耗品費	旅費	謝金等	その他
令和 5 年度	1,250	0	600	550	0	100
令和 6 年度	1,120	0	400	620	0	100
令和 7 年度	1,250	0	400	400	0	450
令和 8 年度	1,380	0	300	630	0	450
総計	5,000	0	1,700	2,200	0	1,100

○研究目的（概要）

野生動植物の家畜化・栽培化は、所有し、殖やし、改良して付加価値を高める「資産化」の側面をもつ。主要な品種の起源地域や時期、伝播経路については諸説あるが、その導入が人類文明に革新的・不可逆的なインパクトを与えたという見方は広く受け容れられている。一方で、社会体制の転換と新たな食糧需給体制の導入という2つのイベントが、相互に関係しているのか具体的に検証することは、しばしば困難をとまなう。

本研究は、階層的社会が誕生した時期の遺跡から出土した「ヒトに飼養された動物個体」の割合を食糧生産力の定量的な指標とする新たなアプローチにより、この課題解決を目指す。その成果は、出土動物研究を「野生か家畜か」という二分論的発想から脱却させ、食糧資源に対する人間側の営みと変遷を定量的に解明する学問へ昇華させるものとなる。

令和4年度 春期シンボル展
「天津司舞—900年の想いととともに—」
終了報告

1. 概要

【内容】

甲府市小瀬に伝承される「天津司舞」は、重要無形民俗文化財に指定される日本最古の人形芝居のひとつである。しかしながら、その舞が度重なる中断や廃絶の危機を乗り越え、繋がれてきたことはあまり知られていなかった。また令和2年度、文化庁補助事業によって後継者養成・伝習用のレプリカが作成された。展示では、天津司舞の特徴や歴史、社会変動と変容、保存継承の取組みを紹介した。9体の人形すべてと、新たに作成したレプリカを展示するとともに、人形のからくりの一部も公開した。

【期間】 令和4年5月28日（土）から同年6月27日（月）
会期日数31日（開館日数27日）

【主催】 山梨県立博物館

【会場】 企画展示室（6/6）

【観覧料】 常設展観覧料（一般520円、大学生220円） ※高校生以下無料

【展示構成】 ①はじまり
湖水伝説とともに語られる天津司舞の由来伝承や、田楽との関わりを紹介した。
②受け継ぐ技
天津司舞の記録や、御神体の人形と現存する用具を紹介した。
③手わたす心
明治維新や洪水、開発などによる中断や変容の様と、継承のための取組みを紹介した。

【主な展示資料】 『七十一番職人歌合』（当館蔵）、『甲斐叢記』（当館蔵）、『甲斐国志』（当館蔵）、延宝7年の曲物容器（天津司神社蔵）、貞享元年・天明元年奉納の装束（天津司神社蔵）、天津司人形およびレプリカ（天津司神社蔵）、御船団（下鍛冶屋町自治会蔵）、指定書（天津司の舞保存会蔵）、国体パンフレット（当館蔵）、祭礼写真（当館蔵）、レプリカ作成用の型（個人蔵）、「ヤマガヒ」関連資料（県民文化ホール蔵）

計50点

【関連イベント】

○ギャラリー・トーク 5月29日（日）、6月11日（土）、6月26日（日）

※いずれも14:00～15:00

○あそぼう！まなぼう！寺子屋ひろば「オリジナル紙芝居『湖水伝説 天津司の舞のはじまり』」6月5日（日）11:00～11:30 参加無料 定員：6名

○かいじあむ講座「小瀬の天津司舞」6月18日（土）13:30～15:00

参加無料 定員30名

【リーフレット】 A4判二つ折り 4頁 4,000部（無料配布）

2. 入場者数

【入館者数】 2,748人 (1日平均:101人)

3. 広報

【印刷物】 ・ポスター B2 600枚
・ちらし A4 20,000枚

【マスコミでの紹介】 ・NHK甲府放送局 1回

4. 総括

- ・平成17年度の開館時に制作した普及用の映像を展示の冒頭で使用した。概説となるだけでなく、祭りの雰囲気や音を伝えるためのツールとしても効果的であった。また、同映像は記録資料としても有益であり、撮影時からの変容をつぶさに知ることができた。県内の他の祭りに関しても、映像記録を残すことが重要課題であると認識できた。
- ・保存会関係者のリピートが多くみられ、普及事業としての展示公開や、博物館活動に理解を得られたことが実感できた。
- ・来館者による SNS 等での感想を見ると、人形のからくりの一部公開や、中断と復活を繰り返してきたことに対する関心が高かった。
- ・展覧会準備の過程において、江戸時代初期から中期に奉納された人形用装束の現存が確認できた。これらについては資料整理後、博物館に寄託されることが了承された。
- ・天津司舞に関しては、令和5年度より甲府市教委が事務局となり、報告書作成事業が立ち上がる予定である。また、令和5年1月には国立劇場の民俗芸能公演にも出演予定である。レプリカ作成(平成30・令和1年度)から展覧会開催(令和4年度)、報告書作成事業(令和5年度～7年度予定)へと、コロナ禍を挟みつつも文化財保存継承の流れを繋ぐとともに、保存会員の士気の維持や一般県民の関心の向上に貢献することができた。県内のすべての民俗芸能に対して同じ事業を行うことは難しいとはいえ、博物館と市町村教育委員会・保存会による連携活動は、一度きりの事業の立ち上げではなく活動の継続こそ重要であるとの実感を得られた。

令和4年度 夏期企画展
「たんけん！はっけん！南極展—壮大な自然と人々の物語—」
終了報告

1. 概要

【内 容】

南極は厳しい自然によって隔てられた、地球上で最後の秘境ともいえる場所でした。世界中の多くの人々が、この「宇宙よりも遠い場所」に挑み、数々のドラマを生み出すとともに、人類にとっての新たな発見をもたらしてきた。

山梨県においては、明治の終わりに日本人として初めて南極へ到達した白瀬蘆らの探検隊に参加した村松進（市川三郷町出身）をはじめ、戦後の国際地球観測年に際しての国際的な南極観測事業への参加を最初に提唱し実現へと導いた矢田喜美雄（笛吹市出身）など、わが国と南極をつないだ人物らを輩出している。現在でも苛酷な南極での観測や、観測を支える技術や人材を南極へと送っている。

本展では、厳しくも壮大な南極の自然環境とともに、困難にチャレンジし続けた人々の歴史を紹介するほか、大人気テレビアニメ「宇宙（そら）よりも遠い場所」とのコラボレーションを展開し、南極からみえる地球の現在と未来について解き明かしていく。

【期 間】 令和4年7月16日（土）～9月5日（月）
会期日数52日（開館日数45日）

【主 催】 山梨県立博物館、山梨日日新聞社、山梨放送

【後 援】 朝日新聞甲府総局、エフエム甲府、エフエム富士、産経新聞甲府支局、
テレビ朝日甲府支局、テレビ山梨、毎日新聞甲府支局、山梨新報社、
山梨中央銀行、読売新聞甲府支局

【協 力】 株式会社キムラ、国立極地研究所、日本通運株式会社、山梨交通株式会社

【協 賛】 日本ネットワークサービス

【観覧料】 常設展観覧料 一般1,000（840）円、大学生500（420）円
※（）内は20名以上の団体料金、県内宿泊者割引

【展示構成と主な展示資料】 展示資料数 110点

○序 章 「宇宙よりも遠い場所」の南極

○第1章 極地に挑んだ人々

- ・明治時代の終わりに南極から山梨に持ち帰られたペンギン剥製（個人蔵）
- ・白瀬南極探検隊関係資料（秋田県にかほ市 白瀬南極探検隊記念館蔵）

・戦後の南極観測関係資料（東京都立川市 国立極地研究所蔵）

○第2章 南極の生きものたち

・アデリーペンギン・コウテイペンギン剥製（国立極地研究所・茨城県つくば市 国立科学博物館蔵）

・ウェッデルアザラシ・ヒョウアザラシ・ミナミゾウアザラシ剥製（国立極地研究所・国立科学博物館蔵）

・南極海の生きものたち（国立極地研究所・国立科学博物館蔵）

○第3章 南極の自然と現在

・クリオロフォサウルス動刻

・南極で採取された隕石（国立極地研究所蔵）

・南極観測と観測を支える人々に関する資料（国立極地研究所・株式会社キムラ蔵）

○南極シアター

・全周映像によるオーロラや沈まない太陽などの南極のふしぎな現象の映像

○終章 南極と地球の未来

・セレモニアル・サウスポール複製（国立極地研究所蔵）

・南極条約記念切手（個人蔵）

【関連イベント】

○かいじあむ南極教室① 「南極からみる地球」

・講師 小林拓氏（山梨大学准教授）

・日時 令和4年7月24日（日）午後1時30分から3時まで

・会場 生涯学習室

・参加者 30名（リモート参加含む）

○かいじあむ南極教室② 「バイオロギングで探るペンギンの生活」

・講師 高橋晃周氏（国立極地研究所准教授）

・日時 同7月31日（日）午後1時30分から3時まで

・会場 生涯学習室

・参加者 30名（リモート参加含む）

○かいじあむ南極教室③ 「白瀬臺と南極探検隊」

・講師 石船清隆氏（白瀬南極探検隊記念館学芸員）

・日時 同8月20日（土）午後1時30分から3時まで

・会場 生涯学習室

・参加者 30名（リモート参加含む）

○親子でたんけん！南極展ツアー

・日時 同7月30日（土）、8月11日（木・山の日）午後5時30分から6時30分まで

・対象 小中学生とその保護者

・参加者 20組40名

○担当学芸員の見どころ解説

・日 時 同7月16日(土)、30日(土)、8月6日(土)、28日(日)、9月3日(土)
午後2時から1時間程度

・会 場 生涯学習室

・参加者 約100名

○かいじあむ子ども工房「初代南極観測船“宗谷”ペーパーモデルを作ろう」

・日 時 令和4年8月13日(土) 午前10時30分・午後1時から(各1時間30分)

・会 場 エントランスロビー

・参加者 約30人

○かいじあむ寺子屋ひろば

・紙芝居「ペンギンのペンペン」ほか 日時 令和4年7月17日(日)

・南極観測船のとびだすカードを作ろう 日時 同7月24日(日)

・アデリーペンギンのパズルを作ろう 日時 同7月31日(日)

・ペンギンの風鈴を作ろう 日時 同8月7日(日)

・沈まない太陽のパズルを作ろう 日時 同8月21日(日)

・ウェッデルアザラシのプラバンを作ろう 日時 同8月28日(日)

・紙芝居「南極のタロとジロ」 日時 同9月4日(日)

いずれも10時30分から11時まで

【発行物】

・『たんけん! はっけん! 南極展』展示図録 B5変形判・160頁

(頒価2,000円 ミュージアムショップで600部販売のほか、一般書店およびamazonなどの通販でも販売)

2. 入場者数

【入館者数】 22,468名(1日平均:499名)

3. 広 報

【印刷物】 ・ポスター B2 1,000枚 B3 200枚

・ちらし A4 30,000枚

【マスコミでの紹介】 ・新聞広告、テレビCMなど

4. 総 括

・令和3年度の同時期に開催の予定も、新型コロナウイルス感染症(以下「新型コロナ」)の拡大により、今年度の開催となった。

・新型コロナの流行第7波がピーク(8月18日に山梨県の最大値となる1,662人の感染者を記録)を迎えるなかで開催されたものの、展示の休止などには至らず、少なくともコロナ前の約7割程度の入館者を得ることができた。

・企画・実施段階より、県内の南極観測支援企業の株式会社キムラの協力を仰いだ。南極にまつわる画像や資料の出品のほか、山梨と南極の関わりを紹介するうえで重要な要素となった。

- ・オーロラなどの全周映像をはじめ、明治から現代にかけての映像を多用し、南極の厳しさや美しさなど、さまざまな観点から印象づける展示構成とした。
- ・ペンギンなどの「かわいさ」だけでなく、高さ 3 メートルのミナミゾウアザラシや南極唯一の恐竜であるクリオロフォサウルスの動刻など、大きさや南極の意外な側面を取り入れた構成とした。
- ・アニメ「宇宙よりも遠い場所」(よりもい) とのコラボレーションとして、作品のシーンと実際の南極観測を関連づけて紹介することで、アニメ未体験の来館者でも資料の使われ方や位置付けが理解できる構成とした。
- ・コラボレーションの一環で導入と南極シアターのナレーションに、人気声優であるアニメのメインキャスト 2 名(玉木マリ:CV 水瀬いのり 小淵沢報瀬:CV 花澤香菜)を起用し、集客性が大きく向上し、SNS でも大きな話題となった。
- ・企画展開催にあわせて、主催の山梨放送で「宇宙よりも遠い場所」の再放送をおこなったほか(5月31日~8月23日 全13回)、同放送でのCMや山梨日日新聞紙上の広告、同紙へのコラム掲載(全5回)など、積極的なメディア展開をおこなった。
- ・かいじあむ南極教室などの講座の開催にあたっては、博物館での対面開催のほか、ZOOMによるリモートをあわせたハイブリット開催とし、遠隔地からの参加希望や新型コロナウイルスによる来館や学習機会の喪失への対策とした。
- ・白瀬南極探検隊に参加した村松進の出身地である市川三郷町にはポスター掲出などの支援を要請し、生家があった旧市川大門町内の全小中学校には、全児童・生徒分の広報ちらしを配布した。

令和 4 年度 秋期企画展
「山梨と新聞—知識を広むるは新聞を求むるに在り—」
終了報告

1. 概要

【内容】

幕末から明治にかけての激動の時代、人々は日々刻々と変わる政治や社会に関する知識を求め、各地でその媒体としての新聞が次々に発行されるようになった。山梨で明治 5 年 (1872) 7 月に発行された「峡中新聞」(現 山梨日日新聞) は、その後の 150 年間、名前を変えながらも山梨の人々に様々な情報を提供し続け、現在に至る迄継続発行されている最古の地方紙として知られている。

新聞の果たす役割は、政治や社会の情報をもたらすだけではなかった。経済、文化、スポーツなど、地域の人々の暮らしに関わるあらゆる情報を伝え、その発展や創造に大きく貢献してきたのである。

「峡中新聞」創刊から 150 周年となる今年、山梨という地域からみえるメディアの歩みを通して“県民の歴史”を紹介する展覧会として開催した。

【期間】 令和 5 年 10 月 15 日 (土) ~ 12 月 5 日 (月)
会期日数 52 日 (開館日数 45 日)

【主催】 山梨県立博物館、山梨日日新聞社・山梨放送、山梨文化会館

【観覧料】 一般 500 (400) 円、大学生 250 (200) 円
※ () 内は 20 名以上の団体料金、県内宿泊者割引
※ 常設+企画共通 一般 820 円、大学生 370 円

【主な展示資料】

「中外新聞 第一号」、「内外新報 第一号」、「東京日日新聞 第一号」、「峡中新聞 第一号」、「をとめ新聞 第一号」、「峡中新報 第一号」、「今日新聞 第一号」、「山梨日日新聞号外 (明治天皇崩御)」、「山梨毎日新聞号外 (明治天皇崩御)」(以上当館)
「大日本新聞雑誌名録」、「日本新聞記者会証」、「ベリカード」、「ENG取材カメラ」、「山梨時事新聞」、「一面大組凸版」、「山梨県郷土博物館設置構想」、「メディア1」
(以上山梨日日新聞社・山梨文化会館)

【関連イベント】

○思い出新聞発行

日時：10月23日(日) 10:00~16:00
(休憩 12:00~13:00)

会場：メインエントランス

参加者：122名

○講演会 I 「山梨の新聞の歴史」

日時：11月3日(木・祝) 13:30~15:00

場所：生涯学習室

講師：向山文人氏 (山梨日日新聞 新聞 150 年史事業統括、元山梨日日新聞社)

論説委員長)

参加者：29名 ※定員30名

○記者が語る新聞取材秘話

日時：11月12日(土) 13:30~15:00

場所：生涯学習室

講師：鶴田圭吾氏(元山梨日日新聞社編集局次長)

前島文彦氏(山梨日日新聞社編集局報道部部長)

樋川義樹氏(山梨日日新聞社編集局地域報道部副部長(デスク))

参加者：30名 ※定員30名

○来館記念新聞をつくろう!

日時：11月20日(日・県民の日) 10:00~16:00

(休憩 12:00~13:00)

会場：メインエントランス

参加者：100組

○講演会Ⅱ「野口二郎と山梨の郷土史研究」

日時：11月27日(日) 13:30~15:00

場所：生涯学習室

講師：清雲俊元氏(山梨郷土研究会理事長)

参加者：27名 ※定員30名

○取材体験 あなたも新聞記者!

日時：12月3日(土) 13:30~15:00

場所：生涯学習室・企画展示室ほか

参加者：2名 ※定員6名

○学芸員による展覧会の見どころ解説

日時：10月30日(日)、11月6日(日)、13日(日)、12月4日(日)
14:00~15:00

場所：生涯学習室

【発行物】 図録 A4版・96頁 800部

2. 入場者数

【入館者数】 4,369名(1日平均:97名)

3. 広報

【印刷物】 ・ポスター B2 1,200枚 B3 200枚

・ちらし A4 40,000枚

【マスコミでの紹介】 ・テレビCMなど

4. 総括

・「峡中新聞」(現「山梨日日新聞」)創刊150年を記念する展示ということもあり、同新聞社の全面的な協力を得て展示・イベントなどを展開することができた。また同社のネットワークを使った広報協力も得られたが、それゆえに同社以外のネットワークにつながりづらいという限界もあった。

・上記の背景を踏まえ、「山梨日日新聞」一辺倒にならないよう、内容の構成をこころがけ

た。その際、これまで書籍などのかたちにもなっていない山梨における新聞の歴史を通覧することを目標のひとつとし、それについては甲州文庫などの館蔵資料によって一通り紹介することができたものと考えている。甲州文庫が山梨県、ひいては国内の新聞史・メディア史を語る上でも極めて重要な資料群であることを改めて示すことができた。

- ・入場者数はさほどふるわなかった。比較的好天に恵まれた時期、なおかつ新型コロナウイルス感染症の第8波到来かと報道されるなかでの開催であったこともあり、屋外への行楽が盛んに行われるようになったことのおおりをうけたものであろう。タイトルなどから内容が難しい、子どもにはわからないのではないか、という印象を与えたことも大きかったと思われる。特に会期中盤、11月上旬の入館者数が低迷した。
- ・近現代史、なおかつ庶民文化の展示であることもあり、いわゆる文化財的な「目玉資料」を提示することができなかった。この点も集客に影響したものであろう。
- ・山梨県のメディア史を語る上で、県内で最も早く新聞を発行し、ラジオ・テレビにもいち早く進出して、現在も県内唯一の日刊新聞社として存在し続ける山梨日日新聞社の収集資料は極めて重要である。通常は社外で公開されていないそれらの資料を、今回多数展示することができたのは大きな成果といえる。
- ・本展でも一部を紹介したが、山梨日日新聞社社長野口二郎の関連・収集資料は、質量ともに山梨県を代表する近現代の歴史資料コレクションである。今後、近現代の文化史やスポーツ・観光を扱う展覧会に活用できるものも多いと考えられる。引き続き情報を共有して活用できるようにしていきたい。

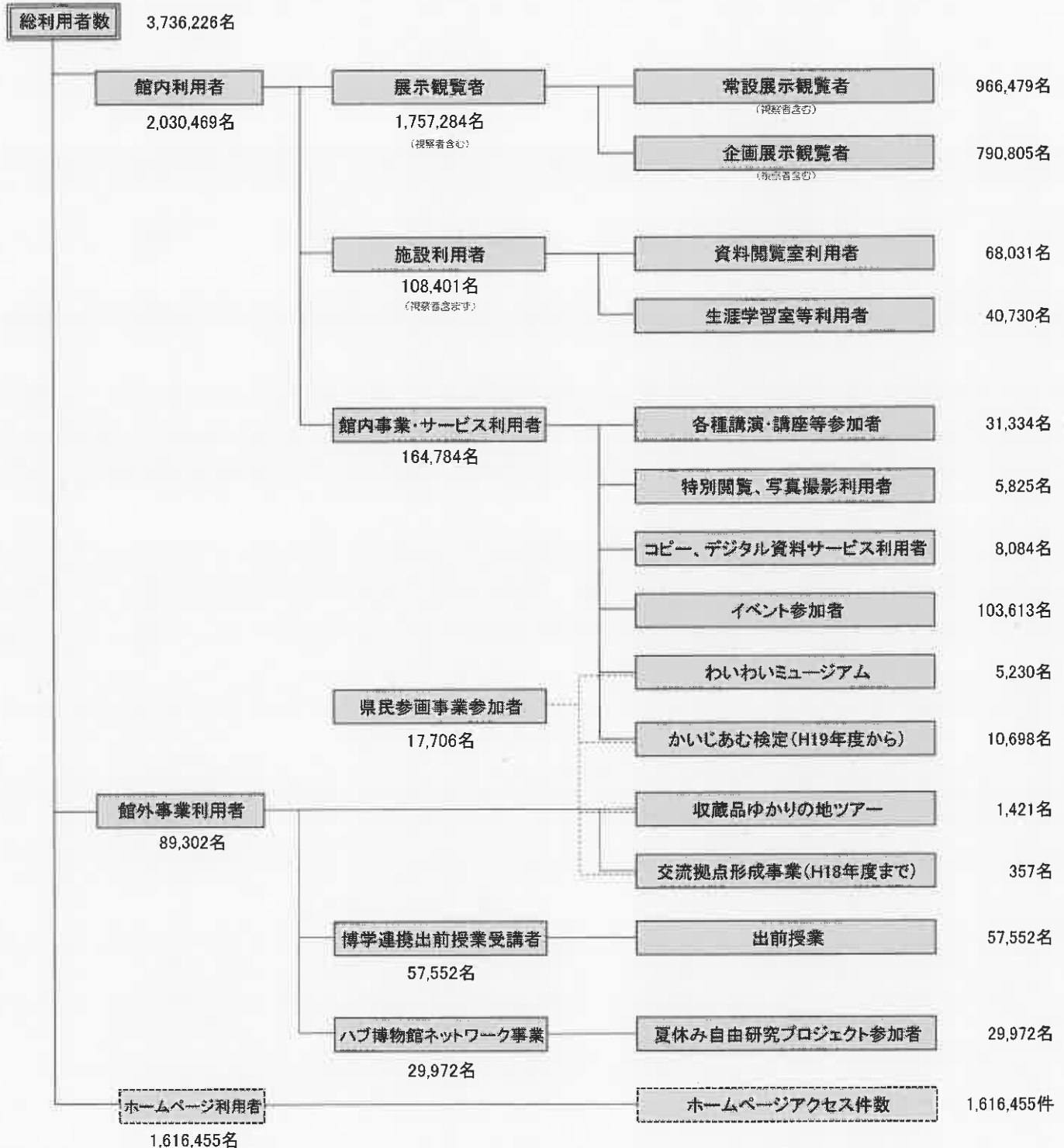
県立博物館における「利用者」の状況

平成17年10月15日～令和4年11月末日まで

令和4年11月末日現在

○博物館の利用者とは、博物館の施設、提供するサービスを利用した者および博物館の事業・活動に参加したすべての対象者をさす。
 なお、一部の利用については、総計に重複して表れる性質がある。

○ここに示す利用者数は、開館(平成17年10月15日)以来、令和4年11月末日までの状況をまとめている。



博物館の利用者の状況について

■開館から令和4年度11月までの年度別統計

年度	総利用者 館内利用者 (a+b+c)										館外利用者					ホームページ利用者							
	展示利用者 (a)		施設利用者 (b)		館内事業・サービス利用者 (c)						入館者センターデータ	県民参画事業			ハブ博物館								
	常設展示 (券券数)	企画展示 (観察)	常設展示 (券券数)	企画展示 (観察)	特別開覧	特別開覧	特別開覧	特別開覧	特別開覧	特別開覧		特別開覧	特別開覧	特別開覧			特別開覧	特別開覧					
	券券数	観察	券券数	観察	特別開覧	特別開覧	特別開覧	特別開覧	特別開覧	特別開覧	特別開覧	特別開覧	特別開覧	特別開覧	特別開覧		特別開覧						
4年度	66,680	58,730	28,715	1,623	26,296	2,096	2,241	1,862	379	5,709	1,229	1,30	228	3,504	400	217	1,420	951	0	0	469	116,339	
3年度	78,785	73,395	34,963	1,709	34,303	2,420	2,125	1,423	702	3,265	644	240	377	1,370	470	164	2,988	2,988	0	0	0	146,798	
2年度	148,754	36,083	20,869	1,345	10,933	895	359	67	292	1,882	185	403	102	627	278	287	1,953	1,953	0	0	0	110,718	
31・1年度	245,078	124,689	110,406	51,450	52,583	3,568	5,046	3,200	1,846	9,237	1,902	748	729	5,072	271	815	9,486	4,701	0	0	4,785	110,303	
30年度	221,157	111,365	94,208	45,437	43,629	2,605	5,955	3,483	2,472	11,202	1,241	818	725	7,253	400	765	8,122	3,862	0	0	4,260	101,670	
29年度	236,110	131,264	111,640	55,118	50,704	3,422	4,745	3,191	1,554	14,879	1,190	310	728	11,604	240	907	6,646	4,207	0	0	2,439	98,200	
28年度	202,665	97,888	79,620	41,133	33,918	2,610	4,836	2,924	1,912	13,442	2,105	335	545	9,431	267	759	66,969	10,071	4,327	0	0	5,744	94,696
27年度	252,303	155,517	140,658	57,879	77,538	3,536	6,032	4,140	1,892	8,827	1,309	306	343	5,673	396	800	111,441	5,303	4,434	0	0	869	91,483
26年度	200,624	109,888	95,994	47,119	45,502	2,243	5,961	3,609	2,352	7,933	1,139	278	359	5,312	364	461	78,297	5,548	4,740	0	0	808	85,188
25年度	213,116	121,898	106,041	57,860	43,886	2,431	6,605	4,067	2,536	9,252	1,635	422	453	5,443	468	831	88,910	7,220	6,350	0	0	870	83,998
24年度	200,181	107,246	91,464	49,341	37,354	2,410	6,351	2,983	3,368	9,431	3,003	306	427	4,633	183	879	71,736	7,110	6,077	0	0	1,033	85,825
23年度	200,843	112,026	96,890	49,858	40,232	3,770	5,758	3,354	2,404	9,378	2,473	276	402	4,943	166	1,118	75,453	4,658	3,721	183	0	754	84,159
22年度	231,370	145,519	124,081	56,505	55,858	8,437	6,137	4,060	2,077	15,301	2,937	84	444	11,121	188	527	101,227	3,728	2,670	141	0	917	82,123
21年度	233,815	145,172	125,928	59,508	59,780	4,764	6,394	4,399	1,995	12,850	3,553	330	488	7,029	231	1,219	99,290	5,194	3,871	274	0	1,049	83,449
20年度	169,893	97,551	77,881	49,634	23,785	2,366	8,199	4,754	3,445	11,671	1,649	265	549	8,613	143	452	74,423	2,781	1,076	180	0	1,525	69,561
19年度	203,261	126,055	109,082	66,291	39,305	1,894	10,422	7,306	3,116	6,551	1,515	219	496	3,861	240	220	95,348	4,833	1,317	166	0	3,350	72,373
18年度	221,232	149,254	127,856	92,277	31,905	1,515	12,369	7,957	4,412	9,029	2,604	263	479	5,213	345	125	124,698	1,576	156	195	125	1,100	70,402
17年度	142,814	113,579	99,768	66,274	32,304	18	8,866	5,252	3,614	4,945	1,321	92	209	2,911	180	232	85,348	665	151	282	232	0	28,570
計	3,736,226	2,030,419	1,757,284	930,031	739,815	50,990	108,401	68,031	40,370	164,784	31,334	5,825	8,084	103,813	5,230	10,698	1,347,712	89,302	57,952	1,421	157	29,972	1,619,459

令和4年度の月別統計

2022.11末現在

	館内利用者 (a+b+c)										館外利用者					ホーム ページ 利用者								
	展示利用者 (a)					施設利用者 (b)					館内事業・サービス利用者 (c)						入館者セン サーデータ							
	常設展示 (発券数)		企画展示 (観覧)		資料閲覧室 ・生涯学習室 利用者	特別閲覧 ・写真撮影等 利用者	バーチャル イベント 参加者	わいわい ミュージアム 検定	利用 者	特別閲覧 ・写真撮影等 利用者	バーチャル イベント 参加者	わいわい ミュージアム 検定	利用 者	特別閲覧 ・写真撮影等 利用者	バーチャル イベント 参加者			わいわい ミュージアム 検定						
	(発券数)	(観覧)	(発券数)	(観覧)															利用者	利用者	利用者	利用者	利用者	利用者
4月	4,443	3,231	1,673	135	1,274	149	155	93	62	1,057	852	13	19	173	0	0	0	60	60	0	0	0	9,923	
5月	16,093	3,307	2,325	142	736	104	180	120	60	877	23	17	30	807	0	0	0	121	121	0	0	0	11,608	
6月	15,046	2,557	2,322	235	0	0	137	110	27	181	76	15	27	63	0	0	0	316	316	0	0	0	11,855	
7月	30,264	11,336	5,201	209	5,689	237	370	343	27	295	91	20	22	162	0	0	0	195	76	0	0	119	18,068	
8月	51,742	23,449	9,717	461	12,539	732	701	684	17	1,821	79	16	41	1,885	0	0	0	147	0	0	0	147	25,624	
9月	22,297	6,326	2,542	133	2,983	288	255	227	28	125	0	15	28	82	0	0	0	207	207	0	0	0	15,764	
10月	17,249	4,544	4,082	64	1,212	128	194	125	69	268	43	15	28	182	0	0	0	258	171	0	0	87	12,447	
11月	17,322	6,156	4,822	244	1,863	458	249	160	89	1,085	65	19	34	350	400	217	0	116	0	0	0	116	11,050	
12月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	184,439	66,800	58,730	1,623	26,296	2,096	2,241	1,862	379	5,709	1,229	130	229	3,504	400	217	0	1,420	951	0	0	469	116,238	